

「タイの洪水被害」と日本企業の復旧状況（日本）

1. 「タイの洪水被害」の状況は？

今年のタイの雨期の降水量は、例年の4割以上にも達しました。そのため、中央部を流れるチャオプラヤ川が氾濫。流域の工業団地のほか、河口部の首都バンコクも浸水しました。

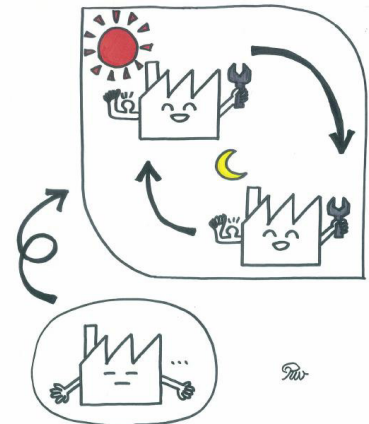
この結果、自動車産業をはじめとする製造業のサプライチェーン（部品供給網）が混乱。世界の総需要の約半分を占めるHDD（ハードディスク駆動装置）の生産も大きく減少しました。

2. 最近の動向

タイ工業連盟が発表した「10月の自動車生産台数」は、前年同月比68%減少の4万9,439台でした。約9年半ぶりの低水準です。

タイの自動車生産に占める日本メーカー8社の割合は、全体の9割にも達しています。工場が直接被災した企業1社に加え、サプライチェーンの混乱で、10月半ば以降、連鎖的に操業が停止。その後、全ての日本車メーカーの生産が停止に追い込まれました。

そして先週あたりから、日本の自動車メーカー各社は生産ラインを再開。タイの国内外からの部品の代替調達にメドがついたことによるものです。まだ、部分操業の工場もありますが、約1カ月間での再開は、当初の予想をはるかに上回るものです。



3. 今後の展開

復旧を早くから成し遂げた自動車工場では、すでに昼夜2交代のフル操業を開始。タイはアジアの重要な製造拠点であり、メーカー各社は今後さらに復旧を加速させそうです。また、自動車だけでなく、HDDを生産する日本企業では、被災を免れた現地の工場を借りて、代替生産を始めた例もあります。日本国内ではデジカメなど精密機器に品薄感が出ています。そのような状況下でのこの動き、期待が集まります。

当初、「タイの洪水被害」で影響が出やすい商品として、デジカメ・カーナビ・録画再生機・パソコンなどが挙げられていました。最近では、プリンターや洗濯機など、タイでの生産が増えた家電への影響も懸念され始めています。日本はあと少しで、冬のボーナス商戦や年末商戦の時期を迎えます。小売業界にとって、正念場となるこれからの時期。気になるのは、被災企業の復旧状況とそのスピードになりそうです。

弊社マーケットレポート

検索!!

2011年10月26日【キーワード No.693】「タイの洪水被害」とサプライチェーン(グローバル)

2011年10月20日【デイリー No.1,105】タイの金融政策(10月)～大洪水の影響を確認するため、政策金利を据え置き～

☆本日の「マーケット・キーワード」のラジオ番組放送内容は、こちら!! ☆

■この資料は、情報提供に限定したものととして、三井住友アセットマネジメントが作成したものであり、特定の投資信託・生命保険・株式・債券等の売買を推奨・勧誘するものでもありません。■この資料に基づいてとられた投資行動等の結果については、三井住友アセットマネジメントは一切責任を負いません。■この資料の内容は発行日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■この資料は、三井住友アセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■この資料におけるデータ・分析等は過去の一定期間の実績に基づくものであり、将来の投資成果及び市場環境の変動等を保証もしくは予想するものではありません。■この資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者及び許諾者に帰属します。